

農村の蔵の実態から見た歴史的建造物の 地域的価値に関する研究

—福島県喜多方市を対象として—

The Meaning of “Kura” in the Countrys’ Local Context
-Kura’s in Ohtaki Village, Kitakata Area-

05-04522 大木寧子 Shizuko Ohki
指導教員 土肥真人 Adviser Masato Dohi

1. 研究の概要

1-1 研究の背景と目的

平成8年の登録文化財の制度等によって幅広く建築物を保存しようという動きが各地で高まってきている。そこには、建築的な評価から地域的な評価へと歴史的建築物の評価の尺度が広がったことが背景にある。しかし、地域的な評価というものには体系化されていない。またここ何百年かに建てられた建物は現在も使われていることが多く、その保存方法・目的もあいまいなままである。そこで本研究では、地域、生活に根付いている福島県喜多方市の農村部の蔵について調査・考察し、農村の蔵の地域的価値と保存・活用の方向性を示す事を目的とする。

1-2 先行研究

喜多方の蔵を主題とした研究には、煉瓦蔵の特徴を扱ったもの¹⁾、蔵座敷の発生について調査したもの²⁾や地域資源を活用したまちづくりについて研究したもの³⁾がある。しかし、これらは蔵そのものの意匠、工法的な価値の発見や市街地でのまちづくり活動に関する考察を主としており、農村の蔵の実態や地域的価値について考察したものはない。

1-3 論文構成

論文構成を[図1]に示す。2章で喜多方市の蔵の概要と保存施策の変遷を概観する。また、市街と農村の蔵の違いについて整理する。3章では、農村においてヒアリング調査を行い、蔵の実態を明らかにする。4章で、農村の蔵と周辺環境の関わりを調査し、村と蔵を構成する風景について考察を行う。そして5章で、農村の蔵の地域的価値について考察し保存・活用の方向性を示す。6章で結論を述べる。



【図1】論文構成

2. 喜多方の蔵の特徴と関連施策

2-1 福島県喜多方市の蔵の概要

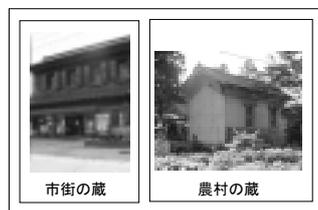
喜多方市では市街地だけでなく周辺農村にまで広域に蔵が残っている。(約4200棟)喜多方の蔵は種類と用途が多岐に渡っている。地域全体に蔵があることが特徴である。

2-2 喜多方市の蔵保存運動の概要

喜多方市の蔵保存活動は主に市街地で行われており、農村部では保存の指針がたっていない。また、農村の蔵は生活の中で利用していることから伝建地区の制度はなじまず、登録文化財制度の利用のみである。

2-3 市街の蔵と農村の蔵の違い【図2】

市街の蔵は主に、商いの蔵であるので道路に接しているものが多い。一方、農村の蔵は主に、生活の蔵であるので敷地の奥にあることが多く、現在も使っているのだから公開することには抵抗がある家が多い。



【図2】市街と農村の蔵

3. 農村の蔵の実態

3-1 調査概要

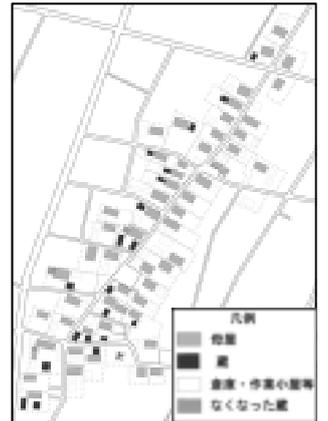
対象地には大田木村を選出した。当村は喜多方市街地から5.7kmほど離れた所に位置し、戸数57世帯、蔵の数は18世帯で22棟ある[図3]。ヒアリング調査概要[表1]の通りである。

【表1】ヒアリング調査概要

調査日時	2008年9月22-26日	調査方法	ヒアリング調査
調査時間	1-3時間	調査対象	大田木村の蔵所有者(14人)
調査項目			
蔵の現状(3-2)	蔵の利用の変化(3-2)	蔵への意識(3-3)	
①蔵の材料 ②補修状況	①建造時の利用 ②現在の利用	①蔵を持つ意味 ②蔵の評価 ③蔵のこれから	
村の蔵についての意識(4章)			

3-2 蔵の利用と補修状況

蔵の利用は農業、生活習慣と関係があり、米・味噌・醤油の保存や行事の道具や農具の保管、さらには農作業を行ったり、住んだりしていた。しかし、昭和後期頃から利用頻度が減っていき、現在は物置として使っているものが多い。補修状況については、屋根は葺き替えの頻度が少ないトタンや銅板が好まれる傾向にあり、もともとあった茅葺きの屋根は消失した[図4]。



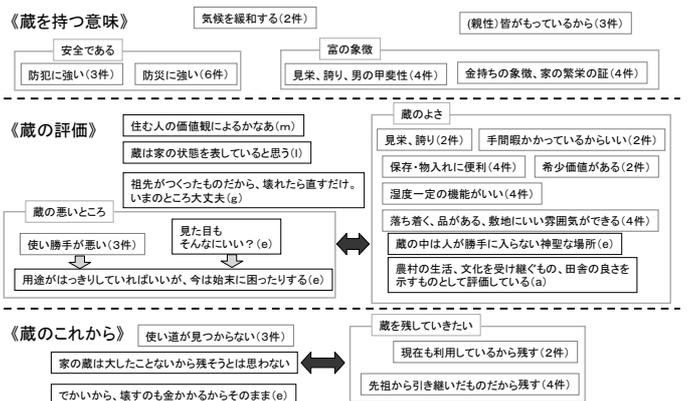
【図3】蔵の位置

3-3 蔵についての意識【図5】

蔵の持つ機能である防火・防犯の機能、温度が一定の機能は現在では目新しいものではなく、蔵の使い勝手の悪さが目に付くが、家の繁栄の証としての蔵の意味は現在も残っている。そして、主人の蔵への意識は、先祖の労苦・勤勉・努力のもたらした遺産として尊敬の念とさらに、現在では建てられないものとして維持継承の思いを強くしている。

回答者	蔵の種類	建造時の利用	利用頻度と屋根材の変化				現在の利用
			明治以前	大正	昭和初期	昭和後期	
a	物置蔵	農業蔵	茅	トタン	トタン		
b	倉庫蔵	座敷蔵	不詳	瓦	瓦	x	
c	物置蔵	農業蔵	茅	トタン	銅板		
d	物置蔵	農業蔵	不詳	トタン	トタン		
e	物置蔵	物置蔵	杉皮	トタン	トタン		
f	物置蔵	二階住居	茅	トタン	銅板		
g	物置蔵	作業蔵(倉)	不詳	不詳	瓦	x	
h	物置蔵	倉庫蔵	不詳	トタン	銅板		
i	倉庫蔵	座敷蔵	不詳	瓦	瓦	x	
j	物置蔵	座敷蔵	不詳	不詳	瓦		
k	物置蔵	座敷蔵	不詳	トタン	銅板		
l	物置蔵	座敷蔵	不詳	トタン	銅板		
m	物置蔵	座敷蔵	茅	木葉	トタン		
n	物置蔵	座敷蔵	茅	トタン	銅板		

【図4】蔵の利用変化と屋根材の変化



【図5】蔵についての意識

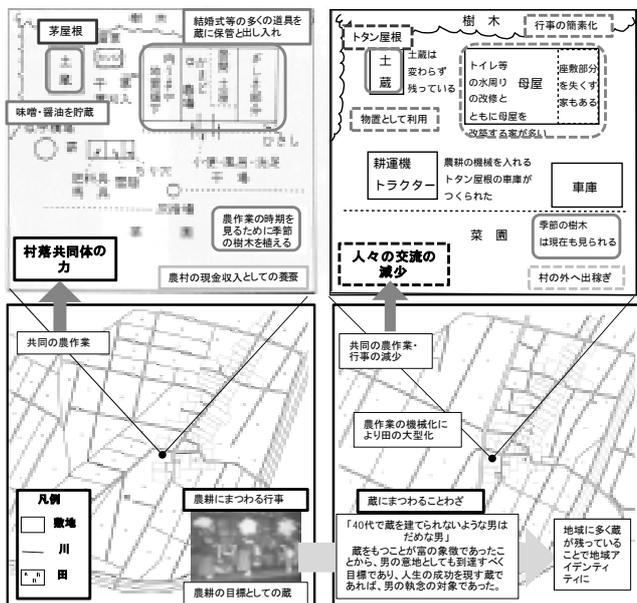
4. 農村の蔵と風景

4-1 分析方法概要

蔵と周辺環境のつながりを地域史をもとに調査する。

4-2 蔵と農村構造

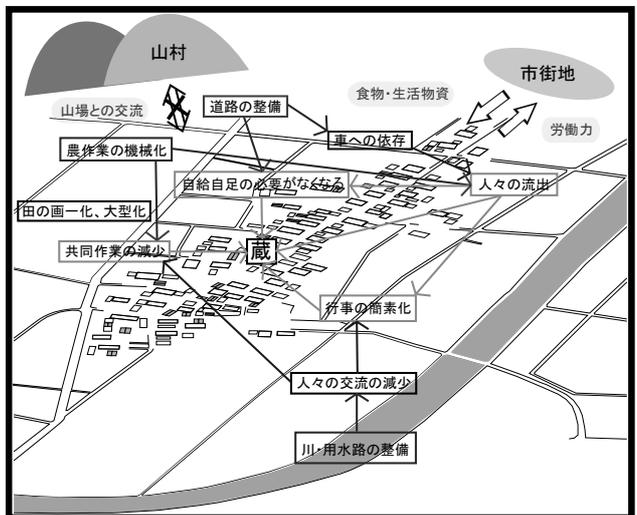
蔵の屋根、壁の材料は地域の材料が用いられ、その作業には村落共同体の力を必要とした。また、養蚕は農村の現金収入であり、多くの家が蔵を持てるようになった。しかし、村落共同体の衰退、安価な材料の普及により蔵の屋根材は変化し、壁のつくりは再現不可能なものとなった。また、農村の都市化、民俗・生活の変化により蔵の利用価値はなく【写真】建造時の蔵利用になった。一方で、蔵にまつわる想いは、農耕の目標からことわざとして日々の生活の中で伝承され地域全体にその想いは根付いている【図6】。



【図6】蔵と農村の変遷

4-3 蔵と風景

農作業の機械化、工業への進出、基盤整備、このような外部の変化によって、蔵をとりまく風景は変化していった。上記の要因は村の内部構造の変化をももたらし、蔵の利用機会も減っていった。徐々に、農村の暮らしは変化していった【図7】。



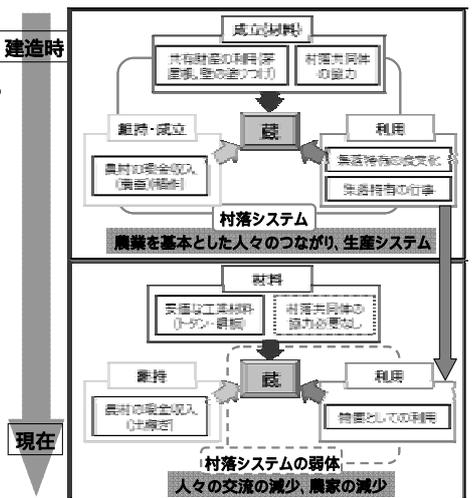
【図7】蔵の利用変化の要因

5. 総合的考察

5-1 農村の蔵の地域的価値についての考察【図8】

農村の蔵は地域の材料と地域建造時の協力からできた。蔵は人々の自然との関わり方との反映であり、農村システムを保存する媒体として位置づけることができる。

農村の蔵は連続と続いてきた農村の暮らし、ある民俗の記憶を留めるものであり、その維持・継承は民俗の継承につながる

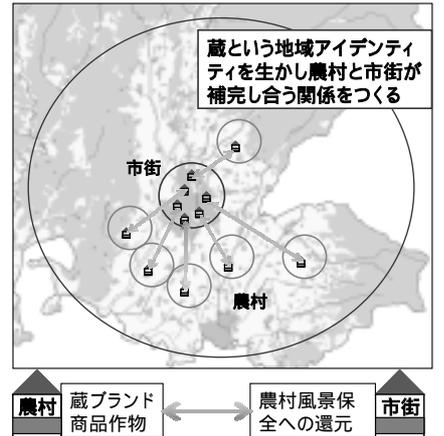


【図8】総合的考察
がり個性ある農村空間の創出につながると考えられる。

蔵は長い間、地域の中で継承されてきたことから人々の心の中に根付き現在では地域アイデンティティとして喜多方市全体にみられる。したがって、蔵は市街地との交流媒体としての可能性をもつと考えられる。

5-2 農村の蔵の維持・活用についての考察【図9】

農村のシステムが壊れたことにより蔵の利用は減っていった。よって“農村のシステムを回復すること”が蔵を守ることにつながると考える。つまり、蔵を農村の現金収入の場や地域の再生に役立てる。蔵というブランドイメージが現在、商業の蔵のみに利用されているのでそのイメージを農村の蔵にも利用する。生産地である農村部での商品作物を蔵ブランドによって価値を高め市街地での観光産業を利用したおもてなしに役立てる。そこで、農村価値の発信とともに、利益を農村の蔵に還元し、維持・保存につかう。さらに、農村体験や民俗行事体験等とからめることで民俗の継承にも役立てる。蔵という地域アイデンティティを生かし農村と市街が補完し合う関係をつくるのが蔵の維持・継承につながる。



【図9】農村の蔵活用の提案

6. 結論

・農村の蔵は農村システムを保存する媒体であり、その維持・継承は民俗の継承につながり個性あふれる農村空間の創出となる。

・蔵は繁栄の証であり、その想いは地域全体に伝承されていることから、これを利用した新しい活用の方向性を提案した。

参考文献

- 1 北村悦子(1986年)「会津喜多方の煉瓦蔵発掘」(技術の風土記)普請研究, 第13号, "8509", pp.140
- 2 草野和夫(1980年)「喜多方の商家土蔵座敷の位置形態と発生について」学術講演梗概集, 計画系
- 3 鈴木智香子他(2007年)「地域資源を活用したまちづくり教育活動の実践に関する研究: 喜多方における地域資源を活かしたまちづくりの実践 その7(大学との協働, 都市計画)」日本建築学会大会学術講演梗概集

